

三河商人道

PART
144

医療法人十全会

三嶋内科病院

事務長 有賀 健君

青年部は、学び舎！



新しい病棟が増設された三嶋内科病院



事務長室にて仕事中の有賀さん



取材スタッフと記念撮影

三味線や釣り、野球観戦など、多彩な趣味で知られる三嶋内科病院の事務長・有賀健さんにお話を伺いました。有賀さんは長野県のご出身。大学卒業後、東京で中小企業向けの金融リース会社に勤められました。当時は毎月2億円近い資金を扱い、ファイナンスや経営について学ばれたとのこと。この頃、奥様のお父上である三嶋理事長から「男手が少ないから手伝ってほしい」と意向を受け、33歳で三嶋内科病院に転職されました。三嶋内科病院では人事・経理・総務・経営と、何でもこなすマルチプレイヤー。これまでの経験を生かし、理事長の片腕として健診や在宅事業の拡大に貢献されてきました。大切にしているのは、開院当初からの三嶋理事長の病院理念。患者目線に立って行動する大切さを謳った理念は、全員に浸透するよう常に読み合わせる機会をもっているそうです。患者さんが何を必要としているかを考え、病院経営を通じて地域の医療を支えていらっしゃいます。

中日ドラゴンズの沖縄キャンプにまで行かれるほどの野球好きで有名な有賀さん。野球観戦にはまったきっかけは奥様の影響で、奥様はスコアブックを付けられるほどとか。他に、三味線、海釣り、ゴルフといった趣味に加え、地元の消防団や大学の同窓会幹事、稲森塾への参加など、様々なことにチャレンジして視野を広げられています。日曜祝日のお休みはほとんどお出かけされているそうで、充実した毎日をお過ごしです。

平成16年、JCを卒業されて40歳で入会されました。初年度は、全国大会準備委員会に所属。鈴木潤委員長のもと、翌年豊田で開催される全国大会に向けた企画検討を行われました。当時を振り返ると、「忙しかったけど、クリエイティブで面白かった」とのこと。豊田スタジアムのフロアに、県内の技術力のある企業紹介ビデオを用意し、モノづくり愛知を全国にPR。レクサスの開発をしている技術者の講演会も取り入れ、大会を盛り立てていきました。企画を進める過程で「企画が固くなりすぎないように、レースクイーンのお姉さんにお茶を配ってもらおう」と、来場者に楽しんでもらえる企画がどんどん膨らんでいく様子が、とても印象的だったそうです。

ジュニア・エコノミー・カレッジも思い出深い事業です。ジュニエコが始まる前年に会津へ視察に行き、「多くの人と知り合えて嬉しかった」と有賀さん。新事業は一つひとつあらゆることを考えないといけないので、大変さと楽しさの両方を経験できたとのこと。「いいスタートが切れたからこそ、ジュニエコは5年間続いたと思う」「意見がぶつかることもあるけど、間違に意見を言いあえるのが青年部のいいところ。新しいアイデアを大事にして、新事業にチャレンジする場を作っていってほしい。それが岡崎を活性化していくことになると思う。青年部では、監事や副会長をさせていただき、多くの学びと友人ができたことに感謝しています」と語られました。



取材担当 / 交流委員会

深田賢之、三浦康宏、
伊與田晃浩、都筑之泰、
柴田吉久